

第 27 回 手話通訳技能認定試験（手話通訳士試験）

「聞取り通訳試験」問題

第 1 問 「銀行の閉店時刻」

皆さん、「銀行はなぜ 3 時で閉まるの。」と思ったことはありませんか。今は 24 時間営業のコンビニや、夜遅くまで開いているスーパーなどがある時代。そんな中で、銀行だけが昔と変わらず午後 3 時に閉まるのは早すぎる気がしますよね。それに、閉店後は何をしているのかも気になります。

銀行法施行規則で「銀行の営業時間は、午前九時から午後三時までとする。」としているのが、3 時閉店の根拠の一つです。

もう一つの根拠は、職員の退社時間を 5 時として、照合作業などに必要な時間を逆算すると 3 時になるということです。

閉店後は、その日あったお金の出入りを確認する作業をしています。それ以外に、手形や小切手に関する作業や、顧客から預かった税金や公共料金をそれぞれの官公庁や企業に送る作業なども行っています。

銀行の窓口も昔より機械化されていますが、それでも最終的な確認は人の目でしているので時間がかかるわけですね。

第 2 問 「がん保険の相談窓口」

「がん保険」と言っても保険会社によって保障内容は様々ですから、どこの保険会社の保障がご自分のライフプランに合っているかがポイントとなります。

がん保険は、以前と比べると保障内容も大きく変わっています。例えば、以前ですと、がんと言っても「悪性新生物」と診断がつくものしか保障の対象とならないものや、がんと診断されたときの給付金が 1 回だけしか支払われないというものが多くありました。

しかし、最近では、手厚く保障する商品も増えてきましたし、入院をしなくても保障の対象となるものも出てきました。

今は日本人の二人に一人ががんになると言われています。もし自分のがんになったら……、健康なうちはなかなかそんなことは考えない方が多いでしょうが、がんになったら、ご自分が納得のいく治療を受けたいと思うでしょう。あるいは、無治療という選択をされるかもしれません。

どんな選択をしたとしても、仕事が続けられず当面の生活費が入り用になったり、体の変化に合わせて家のリフォームが必要になったりすることも考えられます。そんな時にどんなサポートが必要なのか、そのサポートが得られる商品はどれかという観点でお選びになったらいかがでしょうか。

第27回 手話通訳技能認定試験（手話通訳士試験） 「読取り通訳試験」問題（要約文）

第1問「ろう者と軟式野球」（要約文）

ろう学校のアルバムには、野球部の写真がたくさん載っています。ろう者の野球の歴史は長いのですね。

ところが、現在では、ろう学校の生徒の減少に伴い、野球部の存続が危ぶまれています。

意外なことに、普通校も同様に軟式野球をやる学校が減少しているので、対戦相手が少なく、試合ができないこともあります。

しかし、卒業後は、ろう社会人野球というのがあり、全国のチームと対戦できる機会に恵まれています。60歳で現役でやっている方もいます。

他のスポーツも同様に、ろう社会人スポーツを盛り上げて、ろうの子どもたちにも希望が持てるようにしていかなければなりません。

第2問「病院実習で思ったこと」（要約文）

僕は、今、医師になるため、大学で勉強しています。

先日から、病院実習が始まり、いつも大学の講義に来ている手話通訳者がつくことになりました。

手話通訳者は、医師と患者の会話の通訳をしながら、隣の部屋にいる患者の痛がる声や、看護師が道具を準備する音があることも通訳してくれます。

しかし、僕は、そうした情報をもらっても、次に何が起こるのかを予測することも、次に自分はどんな行動をとらなければいけないのかについても、判断することができませんでした。

僕は、今までそういうことをしてこなかったのです。

これからは、情報をもらうだけでなく、得た情報の中から次の展開を予測し、その中で自分はどうすればよいのかを判断する力を、大学卒業までに身に付けなければならぬと思いました。